

日本災害情報学会第24回学会大会 大会プログラム



令和4(2022)年3月19(土)・20日(日)
会場：オンライン／一橋大学一橋講堂(ハイブリッド)

◎3月19日(土) オンラインのみ

09:30	開場	[Room A およびB]
09:50-10:00	開会式	[Room A およびB]
10:00-11:10	口頭発表(セッション1)	[Room A およびB]
11:20-12:30	口頭発表(セッション2)	[Room A およびB]
13:30-14:40	口頭発表(セッション3)	[Room A およびB]
14:50-16:00	口頭発表(セッション4)	[Room A およびB]

◎3月20日(日) ハイブリッド(一橋講堂ならびにオンライン)

09:30	開場・受付開始(一橋講堂のみ)	[一橋講堂(オンラインはRoom A)]
10:00-11:10	口頭発表(セッション5)	[一橋講堂(オンラインはRoom A)]
11:20-12:30	口頭発表(セッション6)	[一橋講堂(オンラインはRoom A)]
13:30-14:40	口頭発表(セッション7)	[一橋講堂(オンラインはRoom A)]
14:50-16:00	口頭発表(セッション8)	[一橋講堂(オンラインはRoom A)]
16:00-16:20	閉会式	[一橋講堂(オンラインはRoom A)]

【参加方法・参加費など】

	正会員(名誉会員・賛助・購読会員含む)	学生会員	非会員(一般)	非会員(学生)
大会参加費	2,000円	0円	4,000円	0円

- 参加をご希望される方(座長・発表者・大会参加費の支払いが不要な学生も含まれます)は、以下のURL(STORES)から参加チケットを購入してください。
- <https://jasdis.stores.jp/>
- 購入後、登録したメールアドレスにチケット(PDF)が届きます。
- オンライン参加の場合は、チケット記載のミーティングURLから入室ください。
- 3/20(日)に現地参加される方は、受付でチケットの提示をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、現地での参加費の支払いはご遠慮ください。
- 領収書は後日、学会事務局よりメールにてお送りいたします。
- 予稿集のURLもチケットに記載されています。

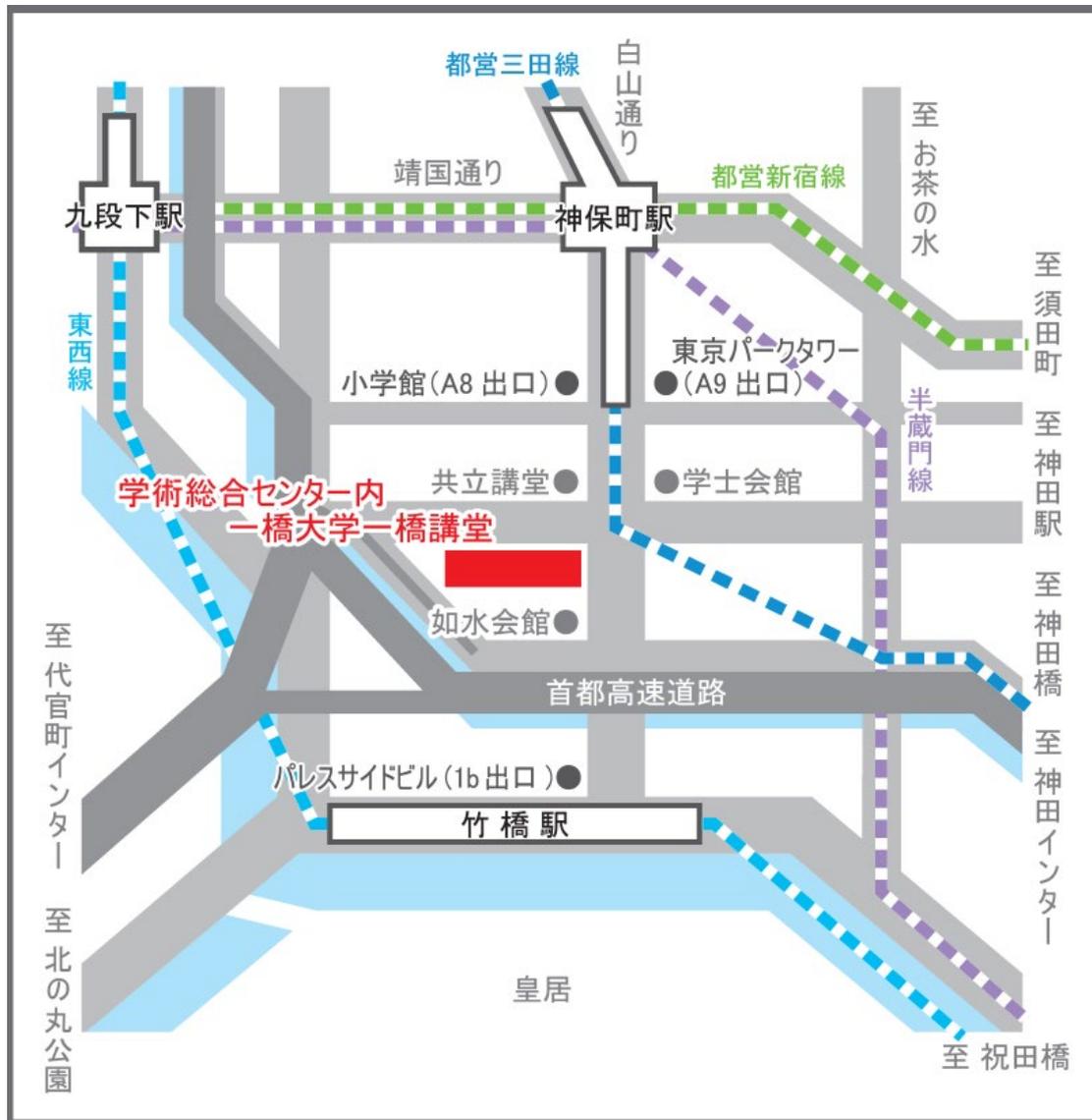
不明点は、学会大会実行委員会・研究発表担当宛(東京大学 安本真也)にご連絡ください

jasdis.taikai@gmail.com

【大会会場案内（アクセスマップ）】

会場：一橋大学一橋講堂（2階）

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内



東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅（A8・A9 出口）徒歩4分
東京メトロ東西線 竹橋駅（1b 出口）徒歩4分

【学会に参加する全員の方に対する諸注意】

- 今回の学会大会は、現地と Zoom によるハイブリッド開催になります。
- 3/19（土）はオンラインのみで実施します。
- 3/20（日）の現地（一橋講堂）での口頭発表は Zoom 配信し、オンライン参加の方の質疑応答も受け付けます。
- チケットの購入はなるべく事前に行ってください。なお、購入が確認できない入室者に対しては、個別にご連絡いたします。
- Zoom クライアントを事前にご自身の PC 等にインストールし、最新版へのアップデートをお願いいたします。
- 新型コロナウイルス感染症対策の観点から、発表者を除く非会員の方の現地参加はお控えください。 オンラインにて参加いただきますようお願いいたします。

【オンライン参加の方に対する諸注意】

- Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用します。
- 当日は 9:30 から入室できます。
- 「ホストがこのミーティングを開始するまで待機しています」「ミーティングのホストが間もなくミーティングへの参加を許可します。もうしばらくお待ちください」などと表示された場合は、そのまましばらくお待ちください。
- 参加時は、Zoom 上の表示名は次のように設定してください：
 - Zoom ウィンドウの参加者リスト内のご自身の項の [詳細]→[名前の変更] で設定可能です。
 - 基本的に表示名は、“氏名@ご所属”にしてください。例) 災害太郎@情報大学
 - 司会の方は、氏名の前に「司会者」を付けてください。例) 司会者 災害太郎@情報大学
 - 発表者の方は、氏名の前に発表番号を付けてください。なおその際は、英字・数字部分は半角・1桁表示にしてください。例) A1-1 災害太郎@情報大学
- マイクとカメラが正しく設定されているか確認してください：
 - Zoom ウィンドウのマイクアイコン、カメラアイコン脇の ^ をクリックで、各設定を確認できます。
- 発表時には、司会・発表者以外は、全員マイクをミュートにしてください：
 - Zoom ウィンドウのマイクアイコンをクリックで、ミュートの on/off を切り替えられます。
- 質疑時に発言したい場合、参加者ウィンドウの「手を挙げる」機能で意思表示してください。
 - →司会者から指名されたら、ミュートを解除し、発言を開始してください。
- 発言を終了したら、「手を挙げる」機能を解除し、再びマイクをミュートにしてください。

【現地参加の方への諸注意】

- 大会参加受付は、一橋講堂 2 階ロビーとなります。会場にお越しの際は、受付にてチケット（電子または印刷したもの）を提示し、会場内にお入りください。
- 受付にてアルコール消毒、検温を行います。
- 会場の感染症対策（下記リンク参照）に則り、実施いたします。
https://www.hit-u.ac.jp/hall/file/covid19_guideline.pdf
- 講堂内は飲食禁止です。2 階のロビー、廊下では飲み物のみ可能です。
- 3 階喫煙所を除き、すべて禁煙です。
- 現地のネットワーク回線は Eduroam/Wi2 300/docomo Wi-Fi/Softbank Wi-Fi (SSID:mobilpoint) です。
- 学会大会で使用する（指定された）会場以外の会議室等には、絶対に入室しないでください
- 発生したごみについては、各自でお持ち帰りいただくようお願いいたします。
- 貴重品の管理は各自の責任においてお願いいたします。万が一、盗難等の被害が発生しても、大会実行委員会では一切の責任を負えません。
- 懇親会は実施しません。

【口頭発表される方全員に対する諸注意】

- 発表は Zoom の画面共有を使ったプレゼンテーションです。発表者についてはビデオ機器等の動作確認をしますので、セッション開始の 10 分前には入室ください。その後、必ず画面共有と音声テストを行ってください。司会より指示します。
- 発表 1 件につき、10 分発表+5 分質疑です。各セッションの最後に 10 分の総合討論の時間を設けます。なお、時間経過は以下のタイミングでお知らせしますが、念のため、お手元等でも計測をお願いします。
 - 8 分 1 鈴
 - 10 分 2 鈴（発表終了）
 - 15 分 3 鈴（質疑応答終了）
- 質疑応答中は、画面共有のまま（スライドが見える状態）をお願いします。
- 発表者の際は、スライドショーのレーザーポインタ機能をお使いください。
- 動画を流す場合は、なるべくパワーポイントに埋め込む形にしてください。

【3/20（日）に口頭発表（対面）される方の諸注意】

- 対面での発表の場合でも、Zoom の画面共有を使ったプレゼンテーションを行います。
- 発表に際して、マイクはオフ、カメラはオンにしてください。
- 実行委員会では発表用 PC や延長ケーブル類を用意しておりませんので、必要のある方はご持参いただくようお願いいたします。
- インターネット環境に不安がある方は当日、大会実行委員にご相談ください。

お困り、緊急時の際は、以下まで連絡をください。

学会大会実行委員会・研究発表担当（東京大学 安本真也） jasdis.taikai@gmail.com

●発表スケジュール（簡易版）

3月19日（土） 9：30開場（オンラインのみ）

	Room A			Room B		
	発表数	テーマ	座長	発表数	テーマ	座長
10:00~11:10 セッション1	4	A1 情報システム	倉田 和己	4	B1 水害1	牛山 素行
11:20~12:30 セッション2	4	A2 災害伝承	小林 秀行	4	B2 水害2	紅谷 昇平
13:30~14:40 セッション3	4	A3 広報・教育	磯打 千雅子	4	B3 地震・津波1	矢守 克也
14:50~16:00 セッション4	4	A4 自治体・地域防災	永松 伸吾	4	B4 避難行動・意思決定	竹之内 健介

3月20日（日） 9：30開場・受付開始（一橋講堂とオンラインのハイブリッド）

	一橋講堂 (Room A)		
	発表数	テーマ	座長
10:00~11:10 セッション5	4	A5 地震・津波2	松原 悠
11:20~12:30 セッション6	4	A6 気象	本間 基寛
13:30~14:40 セッション7	4	A7 リスクコミュニケーション	及川 康
14:50~16:00 セッション8	4	A8 復興・地域防災	中林 啓修

●発表スケジュール（詳細版）

Room A

3月19日（土）10:00~11:10 セッション1

A1 情報システム（座長 倉田 和己）

A1-1 GTFS データによる音声警報伝達のエリア網羅性評価：大丸有地区の帰宅困難者を対象に

- 西野 瑛彦（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科）
- 小高 暁（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科）
- 中島 円（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科）
- 神武 直彦（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科）

A1-2 段波対応型 IoT 水位計の開発

- 森 光大朗（福岡工業大学社会環境学部社会環境学科）
- 中島 暁翔（福岡工業大学社会環境学部社会環境学科）
- 森山 聡之（福岡工業大学社会環境学部社会環境学科）

A1-3 地域の歴史と防災知識を学ぶまちあるきゲームの開発

～ロケーション型 AR アプリ CERD-AR を活用して～

- 新井 千夏（摂南大学 理工学部 住環境デザイン学科）
- 榊 愛（摂南大学准教授 理工学部 住環境デザイン学科）

- A1-4 組織間を横断した災害情報共有の試行実験と考察 ～人的リソースと対応状況の効率的把握を目指して～
○倉田 和己 (名古屋大学 減災連携研究センター)
田代 喬 (名古屋大学 減災連携研究センター)

3月19日(土) 11:20～12:30 セッション2

A2 災害伝承 (座長 小林 秀行)

- A2-1 災害遺構における保存・解体の決定プロセスに関する研究
—文献調査と聞き取り調査による 16 事例のケーススタディー—
○内田 充紀 (東京大学 工学部 都市工学科)
大津山堅介 (東京大学 先端科学技術研究センター)
廣井 悠 (東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻)
加藤 孝明 (東京大学 生産技術研究所)
- A2-2 災害伝承が与える防災行動への影響～小豆島町を対象として～
○田中 健太郎 (香川大学 創造工学部創造工学科 防災・危機管理コース)
磯打 千雅子 (香川大学 IECMS 地域強靱化研究センター)
- A2-3 災害地名が人々の居住へ与える影響の分析
○三谷 純平 (香川大学 創造工学部創造工学科 防災・危機管理コース)
磯打 千雅子 (香川大学 IECMS 地域強靱化研究センター)
- A2-4 お守り言葉としての「絆」
○小林 秀行 (明治大学情報コミュニケーション学部)

3月19日(土) 13:30～14:40 セッション3

A3 広報・教育 (座長 磯打 千雅子)

- A3-1 災害時のごみ排出についての広報に関する考察
○高田 光康 (国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域)
中山 育美 (公益財団法人 廃棄物・3R 研究財団)
岡山 朋子 (大正大学 地域創生学部)
- A3-2 新型コロナウイルス感染症に対する都道府県知事の記者会見から紐解く「衛生広報」
○大瀧 翔子 (東京大学大学院 学際情報学府)
関谷 直也 (東京大学大学院)
- A3-3 防災キャンプによる多様な教育効果の計測手法の検討
○蓑輪 里歩 (群馬大学大学院理工学府 環境創生理工学教育プログラム)
金井 昌信 (群馬大学大学院理工学府 広域首都圏防災研究センター)
- A3-4 災厄のミュージアムにおける「対話」の可能性：「ことばぼこぼこフィールドひとぼう」初期事例報告
○林田 怜菜 (人と防災未来センター 研究部)
正井 佐知 (人と防災未来センター 研究部)
高原 耕平 (人と防災未来センター 研究部)

3月19日(土) 14:50~16:00 セッション4

A4 自治体・地域防災(座長 永松 伸吾)

A4-1 災害時避難所の設立経緯に見る公共施設の位置づけ

- 有吉 恭子(関西大学大学院社会安全研究科)
- 越山 健治(関西大学)

A4-2 中国四川省都江堰市中山間地域集落における自治防災活動の課題に関する検討

- 趙 旭青(筑波大学大学院 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 博士前期課程)
- 梅本 通孝(筑波大学准教授 システム情報系)

A4-3 大規模災害を想定した庁舎整備の実態と被災庁舎における災害対策上の課題に関する研究

- 松本慎一郎(東京大学大学院工学系研究科)
- 大津山堅介(東京大学 先端科学技術研究センター)
- 廣井 悠(東京大学大学院工学系研究科)

A4-4 個別避難計画の作成における課題分析 —作成主体別のプロセスとその規定要因に着目して—

- 山下日菜子(東京大学工学部都市工学科)
- 大津山堅介(東京大学 先端科学技術研究センター)
- 廣井 悠(東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻)
- 加藤 孝明(東京大学 生産技術研究所)

一橋講堂(Room A)

3月20日(日) 10:00~11:10 セッション5

A5 地震・津波2(座長 松原 悠)

A5-1 来街者の津波避難経路選択行動の特性分析と津波避難に資する都市のあり方に関する一考察

- 神奈川県横浜市・鎌倉市・藤沢市における歩行実験と質的分析によるケーススタディー—
- 齋藤 悠介(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)
- 大津山堅介(東京大学先端科学技術研究センター)
- 廣井 悠(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)

A5-2 地震の被害想定という情報は住民の備えにつながるのか

- 安本 真也(東京大学大学院学際情報学府)
- 関谷 直也(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

A5-3 津波避難キャスターコメントに関する考察 —報道キャスター対象の定性的調査から—

- 福本 晋悟(毎日放送 総合編成局アナウンスセンター)

A5-4 発災からのタイムラインにおける無意識の「世間」の影響

- 松原 悠(京都大学大学院情報学研究科)
- 矢守 克也(京都大学防災研究所)

3月20日(日) 11:20~12:30 セッション6

A6 気象 (座長 本間基寛)

- A6-1 河川整備による浸水リスクの変容および居住動向の変化に着目した河川整備計画と都市計画の連携施策の提案 -大阪府安威川流域を対象としたケーススタディ-
- 山田 拓実 (東京大学 工学部都市工学科)
 - 大津山堅介 (東京大学 先端科学技術研究センター)
 - 廣井 悠 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)
 - 加藤 孝明 (東京大学 生産技術研究所)
- A6-2 令和3年8月佐賀県六角川氾濫における住民の避難行動と災害情報への評価
- 本多 祥大 (日本大学大学院新聞学研究科博士前期課程)
- A6-3 コロナ災害と気象災害の類似性の検討
- 水野 一成 (NTT ドコモ モバイル社会研究所)
 - 近藤勢津子 (NTT ドコモ モバイル社会研究所)
 - 吉良 文夫 (NTT ドコモ モバイル社会研究所)
- A6-4 令和3年8月の大雨での降水量と人的被害発生の関係性
- 本間 基寛 (日本気象協会)
 - 牛山 素行 (静岡大学防災総合センター)

3月20日(日) 13:30~14:40 セッション7

A7 リスクコミュニケーション (座長 及川 康)

- A7-1 リスク解釈の「分断」と情報環境・情報利用動機の関係性
- 石橋 真帆 (東京大学大学院学際情報学府博士課程)
 - 安本 真也 (東京大学大学院学際情報学府博士課程)
 - 関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)
- A7-2 主体的な学びを意識したオンライン防災教育の実践
- 鈴木 光 (工学院大学大学院博士後期課程工学研究科建築学専攻)
 - 村上 正浩 (工学院大学教授建築学部まちづくり学科)
- A7-3 医療機関における災害対応の周知に関する研究
- 篠原 有幸 (JCHO 四日市羽津医療センター)
- A7-4 トンガ沖噴火から考える「避難情報廃止論」
- 及川 康 (東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科)

3月20日(日) 14:50~16:00 セッション8

A8 復興・地域防災(座長 中林 啓修)

A8-1 住民防災組織の地域防災力強化に向けた組織論的アプローチの研究～葛飾区の活動事例を通じて～

○葛西 優香(東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻 関谷研究室)

A8-2 タイムラインの目的と効果

○作間 敦(CeMI 環境・防災研究所(東京大学大学院学際情報学府))

A8-3 熊本地震後の励まし活動における実現過程の把握

○門倉 慧(筑波大学大学院 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 博士前期課程)

梅本 通孝(筑波大学准教授 システム情報系)

A8-4 マルチハザードの視点で見た住まいの復興と移住に関する実態調査:気仙沼市における質問紙調査を通じて

○大津山堅介(東京大学 先端科学技術研究センター)

Room B

3月19日(土) 10:00~11:10 セッション1

B1 水害1(座長 牛山 素行)

B1-1 災害対策による副次的効果に関する研究 ~高松市における雨水タンク設置効果の分析~

○中村 公貴(香川大学 創造工学部創造工学科 防災・危機管理コース)

磯打 千雅子(香川大学 IECMS 地域強靱化研究センター)

B1-2 気象レーダを用いた吹雪視程障害のリアルタイム推定

○大宮 哲(土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ 雪氷チーム)

松下 拓樹(土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ 雪氷チーム)

大久保幸治(土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ 雪氷チーム)

菅原 邦泰(土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ 雪氷チーム)

西村 敦史(土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ 雪氷チーム)

B1-3 伊勢湾台風における名古屋市の避難者の分布と移動

○荒木 裕子(名古屋大学減災連携研究センター)

倉田 和己(名古屋大学減災連携研究センター)

田代 喬(名古屋大学減災連携研究センター)

B1-4 2021年8月の大雨による人的被害の特徴

○牛山 素行(静岡大学防災総合センター)

本間 基寛(日本気象協会)

3月19日(土) 11:20~12:30 セッション2

B2 水害2 (座長 紅谷 昇平)

B2-1 東・東南アジア各国の水害情報伝達対策に基づく北京市への適用可能性の検討

- WANG HANFEI (筑波大学大学院 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群)
- 梅本 通孝 (筑波大学 システム情報系)

B2-2 暑熱環境適応計画の国際比較と日本におけるクーリングセンターの整備方針の検討

- 山田 航介 (東京大学工学部都市工学科)
- 大津山堅介 (東京大学先端科学技術研究センター)
- 廣井 悠 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)
- 加藤 孝明 (東京大学生産技術研究所)

B2-3 消防隊員の水災害活動経験談を活用した意思決定要因分析

- 池田 侑輝 (筑波大学)
- 梅本 通孝 (筑波大学)

B2-4 被災市町村に対する都道府県の人的支援体制の実態：都道府県・水害被災市町村への質問紙調査より

- 紅谷 昇平 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科)

3月19日(土) 13:30~14:40 セッション3

B3 地震・津波1 (座長 矢守 克也)

B3-1 2022年1月トンガ諸島の火山噴火に伴う津波に対する避難行動の特性

- 柴山 和久 (株式会社 Agoop)
- 永松 伸吾 (国立研究開発法人防災科学技術研究所)
- 加藤 有祐 (株式会社 Agoop)
- 鈴木 進吾 (国立研究開発法人防災科学技術研究所)

B3-2 密集市街地整備事業後の居注意思と景観評価の変化

——ストリートビューを用いた非居住者へのアンケート調査から——

- 久保田和義 (東京大学工学部都市工学科)
- 大津山堅介 (東京大学先端科学技術研究センター)
- 廣井 悠 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)
- 加藤 孝明 (東京大学生産技術研究所)

B3-3 大規模地震時の医療拠点における負傷者の集中緩和に関する研究

-市民の対応と救護所配置に着目した東京都墨田区を中心とするシミュレーション-

- 竹中 大貴 (東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻)
- 廣井 悠 (東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻)
- 大津山堅介 (東京大学 先端科学技術研究センター)

B3-4 『東日本』を受けて『南トラ』へ」でよいか？

- 矢守 克也 (京都大学防災研究所)
- 中野 元太 (京都大学防災研究所)

3月19日(土) 14:50~16:00 セッション4

B4 避難行動・意思決定(座長 竹之内 健介)

B4-1 四国地方住民の火山灰被害に対する危機意識に関する研究

～不作為のリスク行動に関するモデルの検討～

○長尾 陽飛(香川大学創造工学部創造工学科防災・危機管理コース)

磯打千雅子(香川大学 IECMS 地域強靱化研究センター)

B4-2 心理的要因と状況要因を考慮した水害避難意思決定構造の検討

○吉井 健太(群馬大学 大学院理工学府 環境創生理工学教育プログラム)

金井 昌信(群馬大学 大学院理工学府 広域首都圏防災研究センター)

B4-3 避難所の収容率情報が避難行動に及ぼす影響

○白石 源二(電気通信大学 I類 経営・社会情報学プログラム)

田中 健次(電気通信大学 大学院情報理工学研究科 情報学専攻)

長濱 章仁(電気通信大学 大学院情報理工学研究科 情報学専攻)

B4-4 気象災害の潜在性に関する意識調査～災害ポテンシャル情報の社会における活用に向けて～

○竹之内健介(香川大学創造工学部)

鈴木 舜平(京都大学情報学研究科)

本間 基寛(日本気象協会)

山口 弘誠(京都大学防災研究所)

佐山 敬洋(京都大学防災研究所)

及川 康(東洋大学理工学部)

大西 正光(京都大学防災研究所)

矢守 克也(京都大学防災研究所)